

ICTを活用した安全技術「ICT安全」の事例

1枚に1技術を目安に記載願います

JCMA機電i-Con現場WG

発行No
A-40

■技術名称	
安全建設気象モバイルKIYOMASA	
■基本情報	
発注者	
会社名	
工種 (大項目)	ダム / トンネル / シールド / 造成 / <u>舗装</u> / 橋梁 / 構造物 / その他 ()
工種 (小項目)	工事全般「舗装」「土工」「防水」他
仕様	発注者指定 / <u>受注者独自</u>
採用事由	①ICT対象工事 ②技術提案 ③自主導入 ④ <u>創意工夫</u> ⑤その他 ()
採用目的	災害防止 / <u>危険有害要因の低減</u> / メンタルヘルス・作業環境の改善 / その他 ()
■実施内容詳細 (危険事例や想定だけの場合は本欄の記入は不用。)	
対象数量	アスファルト舗装:10,661㎡ 道路改良:3,200㎡ 防水:1,662㎡
活用ICT	無人化・省人化 / 人・行動センシング / 機械センシング / その他能力支援 (<u>局地気象予報情報</u>)
システム業者	株式会社ライブビジネスウェザー
導入効果・検証 (1)	局地予報の精度が高く、気象メール配信機能により、風や雨等が作業中止基準を超えると予測されると、現場監督および現場作業員に瞬時にメールが自動配信され、強風や豪雨等の作業を回避等の対応ができた。
導入効果・検証 (2)	3時間毎のWBGT (国際基準の暑熱環境指数) を予測でき、熱中症対策として朝礼時に活用した。
導入効果・検証 (3)	

作成者氏名	
連絡先(アドレス)	
■参考図・写真	
<p>注意喚起メール</p>  <p>例えば、A現場は大雨警報が出された時、B現場は風速15m/s以上の強風が吹いた時など、現場ごとの工事中止基準に条件を合わせてメールを送信されるように設定できます。</p>	
■欲しい安全機能、改善したい機能	
WBGT (国際基準の暑熱環境指数) の予想を1時間毎にして欲しい。	
■課題・要望事項	
特になし	